

すっかり恒例となったトラムパーティが今年は11月12日（土）に開催されました。参加したのは会員本人12名、家族および友人13名で定員限度いっぱいの25名です。例年通り16時に中環のHSBCで集合し、各自石塘咀のトラム車庫まで移動して17時発車の段取りだったのですが、昨今の香港島西部の渋滞はすさまじく、買出しのタクシーは拾えないわ車庫行きのトラムは動かないわで、予約していた128号（赤いほう）の電車に乗れたのは17時の数分前、小松崎さんチームだけ間に合わず中環で途中乗車になったものの何とか定刻に発車しました。

乾杯の発声は井出篤子さんにお願いしました。毎年参加したかったのに都合がつかず久しぶりにご夫妻での参加です。参加者が多いと会計も楽チンで、昨年よりちょっとおいしいシャンパンで乾杯、パーティの始まりです。

暗くなってネオンが点き始める中を進んでいきます。写真家の永田幸子さんが何人かずつ撮影会をしてくださり出来上がりが楽しみです。こうなると晴天を感謝せずにはいられません。5回とも晴天に恵まれるのも幹事の力量と勝手に思うことにします。

# トラムパーティ 2011

11月12日開催



[乗車報告担当 003 田村善隆]

★古董電車 128号  
2階前方がオープントップの128号車



ルート図は今年の「旅のしおり」  
(小柳会長作成)より転載  
実際はトイレ休憩と  
ハッピーバレー回りがなくなった



予定では銅鑼灣で折り返しですが、時刻を見ると既に1時間以上経過しており、まずいなどと思いきや、案の定折り返し地点でのトイレ休憩はパス。予定していたハッピーバレー経由ルートも波斯富街を左折せず直進したのでパス。波斯富街が一番ネオンがきれいな通りなのにちょっと残念。そのまますぐ車庫に帰り時刻を見たら19時ちょっと過ぎて契約上の2時間ほぼピタリでした。トイレ休憩がなかったことで膀胱がピンチになった方もいたのでは・・・

昨年はトラム会社のガイドが同乗しており交渉(かなりゴリ押し)の末ハッピーバレー方面に曲がってもらったのですが、今年は運転手のみだったのでそれもかなわず銅鑼灣に行って帰るだけのコースになってしまいました。在港の千葉さんによると、傭車契約書を精査したところ乗客は運転手の提示するルートに全面的に従わないとならないとのことで、そもそも交渉の余地すらないのだそうです。でも、コース変更があったとしても、その分トラムはゆっくり走れるわけで、景色を楽しむ余裕もできてそう悪いものではなく魅力は尽きません。やっぱりまた来年もやっちゃうだろうと思います。願わくば、トラム会社が毎年100ドル単位で料金を釣り上げるのはやめてほしいけど。



2回あるはずの途中トイレ休憩そしてハッピーバレールートへの進入もパス。ひたすら疾走してきた128号が石塘咀に戻ったのは10分遅れの19:10ころでした。車上のパーティで快く飲んだ余韻か、西營盤までの足取りは各自バラバラ。まるで香港各地から明星酒家に集まったかのように、最初の方は1階ロビーでゆっくり待ち、そこへ次々とトラムで一緒だったメンバーが到着。



乾杯はスコール (skol) ビール。キョロちゃんこと小松崎美穂さんが乾杯の発声。おっと、司会は田村善隆会計長。善隆さん、最初から最後まで集金・会計そして二次会司会お疲れさまでした。

明星の二次会は食事中心。香港在住の千葉さんが明星と調整してくれた気合の入ったメニューです。何しろ前月に先遣隊としてここで会食を一緒したのは私ですが、千葉さんは「来月は頼むぞッ」的に担当のウェ이터に念を押す慎重さ。椒塩尿蝦皇。シャコはいいなあ。白灼海生蝦。茹で蝦。これは手が忙しくて無口になってしまう。そして、蒸清大青斑。魚の白身がプリプリ、汁が美味。伊麺がときどき登場し、「コレって流行っているのかなあ」とか「伊麺ってパスタに近いなあ」などと、大いにお気軽に勝手なことを話し続けていました。ああっ美味しかったです。

毎度のことですが、現地集合・現地解散でさっぱりと西營盤で解散。それぞれの香港に戻ってゆくのでした。

当日のメニュー



トラムパーティ初回から予約の労を取ってくださっていた森山さんが香港不在の今回、パーティにも参加できないとのこととさてどうしよう？ と悩んだ挙げ句、香港在住の千葉邦和さんをお願いしたところ、乗車予約から宴会の手配までお世話になってしまいました。長く香港島に暮らす千葉さんにとってこのパーティはどうなの？ と、秘書長がインタビュー（千葉さんは秘書長の高校の同級生です）。

—今年も楽しかったですね。

「トラムパーティは楽しいね。日頃は知らない人同士で乗り合う交通機関であるトラムに、知っている人ばかり25人で乗り込む、そしてみんなが一つのルートを動いている。しかしひとつのルートの上にいるのだけれど、その25人は決して同じものだけを見ているわけではない。さまざまなベクトルを持ちながら、それぞれの人が自分なりにトラムの2時間を楽しんでいます。それがとても面白いです」

—今回、初めて乗車された方もいました。

「昨年もそうでしたが、香港在住の新人を1人は誘うようにしてるんです。なにかの縁で香港に来て何年か住む方が、へえこんなことがあるんだ、と素直に楽しんでくれる。せっかく香港に来たのだから、それを体験させてあげたいと思います。実際、誘った方はとても喜んでくれるし」

—私たちは今後も続けたいと思ってるんだけど…

「どうぞ香港に来てください。またやりましょう！」

トラム下車後、記念写真撮影

©永田幸子



以上、ざっと今回のトラムパーティについて報告いたします！  
参加できなかった会員の方には、参加者一同よりささやかなお土産を用意しました。次回開催時はぜひ車上で一緒できますよう楽しみにしています。